

オヒキコウモリ *Tadarida insignis* (Blyth)

【選定理由】

愛知県内では名古屋市でのみ確認されている(野呂, 2015)。国内に6カ所知られている生息地では、いずれも集団での生息、夏期(7~8月)の繁殖、冬季の休眠をおこなうことが知られている。愛知県の近隣では三重県の無人島での集団生息や静岡県における集団生息地が知られているもの(Sano, 2015)、県内では生息状況が不明なため「情報不足」に選定した。

【形態】

2種知られている日本産オヒキコウモリ属の大型のもので、前腕長57~65mm、頭胴長84~94mm、尾長48~56mm。腿間膜から長く突出した尾と、きわめて大きな耳介が特徴である(前田, 2014)。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市中区、守山区(野呂, 2014; 2015)。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の30カ所以上の記録がある。集団の生息が確認されたのは4カ所の無人島、京都府(舞鶴湾上の沓島：繁殖)・三重県(紀北町の耳島：生息)・高知県(蒲葵島：繁殖)・宮崎県(枇榔島：繁殖)、および島以外の2カ所、静岡県(海に突き出た岸壁)・広島県(学校：改築で2004年には3頭まで減少)である(Sano, 2015など)。

【世界の分布】

日本、台湾、ロシア沿海地区、朝鮮半島、中国(Sano, 2015)。

【生息地の環境／生態的特性】

オヒキコウモリの単独個体が偶然に発見された場合、それは「生息個体数」に含まれないとみなされている(前田, 2014)。日本国内で確認された6地点の生息地では、無人島の岩の割れ目、および家屋の隙間を隠れ家としている(Sano, 2015)。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県の近隣では、三重県いなべ市での複数個体、静岡県と三重県南部熊野灘洋上の耳島での集団生息が知られている(寺西, 1985; Sano, 2015)。愛知県における繁殖集団の存在は未確認であるが、その存在が確認された場合には、生息集団の生息環境の破壊や攪乱が極めて大きな減少要因となる。

【保全上の留意点】

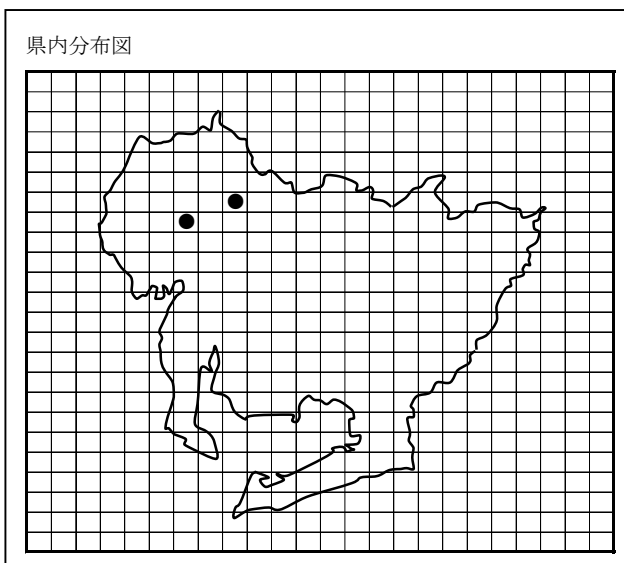
名古屋市の都心部で2011年10月7日に発見された雌個体は、歯の摩滅程度から当歳獣で(野呂, 2014)、繁殖地からの分散個体の可能性も高い。したがって、名古屋市内で発見された若い個体の繁殖地は、名古屋市近郊の陸地にとどまらず、伊勢湾や既知の生息コロニーのある三重県熊野灘洋上の耳島(Sano, 2015)など近隣島嶼の可能性もある。保全上の留意点として、名古屋市内で発見された個体の由来する壱や繁殖地の特定を含む今後の調査・研究が挙げられる。

【特記事項】

愛知県内でオヒキコウモリの生体が直接確認された名古屋市中区丸の内にあるビル8階では、「トイレの壁」にしがみついていたという(野呂, 2014)。この雌個体や三重県いなべ市で2回発見された雌2頭(1972年7月と1978年3月：寺西, 1985)の生息地や繁殖地の所在地は不明であるが、これらの発見された場所が静岡県と三重県の集団生息地に挟まれていることは興味深い。

【引用文献】

- 前田喜四雄, 2014. オヒキコウモリ. Red Data Book 2014, 1 哺乳類, pp.74-75. ぎょうせい, 東京.
野呂達哉, 2014. 愛知県名古屋市におけるオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の初記録. なごやの生物多様性, 1: 65-69.
野呂達哉, 2015. オヒキコウモリ. レッドデータブックなごや 2015 動物編, p.51. 名古屋市環境局環境企画部, 名古屋.
Sano, A. 2015. *Tadarida insignis* (Blyth, 1861). The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.130-131. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
寺西敏夫, 1985. ほ乳類雑記(4) 1984.1-1984.12.15. マンモ・ス, (39): 2-7.



(子安和弘)